

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1570200954		
法人名	社会福祉法人長岡福祉協会		
事業所名	グループホーム三和		
所在地	新潟県長岡市三和町3丁目138-2 (電話) 0258 37 6161		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	2月25日

【情報提供票より】(20 年 10 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤7人、非常勤 0人、常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	コンクリートパネル構造 造り		
	2階	建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 ~ 32,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 260 円	おやつ 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (20 年 10 月現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人崇徳会 田宮病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム三和」は、長岡市役所の近く、官公庁や商業施設が多い地域にある。周辺に住宅地は少なく、町内会も組織されていない地域ではあるが、行事案内の配布や、地域の廃品回収への参加、散歩時のあいさつなど、工夫しながら近隣住民との交流に取り組んでいる。介護保険制度開始後、比較的早い時期に開設したグループホームであり、県内のグループホームの草分け的存在として、県の事業者団体でも中心的に活動してきた。同一法人の複数のグループホームとも定期的に連絡会を開催し、ケアの質の向上に努めている。また、法人として職員の育成に熱心に取り組んでおり、研修体制も整備されている。自己研鑽への職員の意識も高い。利用者の介護度は比較的高く、介助量も大きい。このような状況の中でも利用者が穏やかにゆったりと生活できるよう、職員は、利用者のペースや状況に合わせた質の高いケアを提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を運営推進会議でも話し合い、改善に取り組んだ。「市町村との連携」では、運営推進会議の議事録を提出したり、市担当者へ日頃から報告や相談をするなどしている。「家族への報告」は、面会時に口頭で状況報告をするほか、利用者の様子を掲載した広報紙を配布している。「急変時や事故発生時の備え」については、研修会を計画しているものの、定期的・継続的に訓練を実施するまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員の意見を聞きながら実施した。その中で、サービスの向上にむけた新たな発見や気づきを得た。サービス評価の結果は運営推進会議でも話し合い、改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回運営推進会議を開催し、評価の内容や行事、防災訓練などの検討をしている。活発な意見交換がされ、具体的なサービス内容の改善に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多く、その際に近況や職員の異動などを詳しく伝えている。預かり金の残高確認は複数の職員で行い、毎月家族に報告している。平成20年度からは、季刊の広報誌に利用者の様子を盛り込んで家族に配布している。また、家族会の代表に家族の意見の取りまとめや相談の窓口をお願いし、苦情や要望を積極的に掘り起こす努力をしている。出された意見は職員間や運営推進会議で話し合い、運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺は会社や官公庁が多く町内会もない地域であるが、地域の廃品回収に参加したり、ホームでの行事の案内を近所の方に手渡しするなど、地域との関わりを意識した取り組みをしている。近くの土手を散歩コースとしており、散歩の際には地域の人たちとコミュニケーションを図っている。また、ホームで行う健康体操に地域の人たちも参加するようになり、調査時にも地域の人々が来られていた。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、「利用者の意思を尊重し、明るく家庭的な雰囲気を大切に、地域との交流の下で、その人らしく暮らしていけることを支援します」という理念を掲げている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食堂や事務室、ケース記録のファイルに理念を貼り、職員がいつでも確認できるようになっている。好きなことが出来たり食べたいときに食べることが出来るなど、生活の場面場面で利用者の意思を尊重し、理念の実践に努めている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域との交流を積極的に行い、行事への参加を呼びかけたり、広報紙を配布するなどしながら、理念の浸透を図っている。		ホームのパンフレットが開設当時に作成されたものであり、理念の掲載がない。多数の人の目に触れるパンフレットにも理念を掲載することで、地域住民や利用者、家族へさらに理念が伝わると考えられる。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺は会社や官公庁が多く町内会もない地域であるが、地域の廃品回収に参加したり、ホームでの行事の案内を近所の方に手渡しするなど、地域との関わりを意識した取り組みをしている。近くの土手を散歩コースとしており、散歩の際には地域の人たちとコミュニケーションを図っている。また、ホームで行う健康体操に地域の人たちも参加するようになり、調査時にも地域の人々が来られていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見を聞きながら実施した。その中で、サービスの向上にむけた新たな発見や気づきを得た。サービス評価の結果は運営推進会議でも話し合い、改善に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、評価の内容や行事、防災訓練などの検討をしている。活発な意見交換がされ、具体的なサービス内容の改善に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議の議事録を提出したり、ホームの状況報告をしている。また、運営に関する相談にも応じてもらっている。今後、市主催による意見交換会の定期開催も予定されている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の月例ミーティングで、虐待や身体拘束の事例をもとにした研修会を行い、理解を深めている。また、日頃の自分たちの行動や声かけについて、ホームのミーティング時に振り返り、話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、その際に近況や職員の異動などを詳しく伝えていく。預かり金の残高確認は複数の職員で行い、毎月家族に報告している。平成20年度からは、3ヶ月ごとに発行する広報紙に利用者の様子を盛り込んで家族に配布している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の代表に家族の意見の取りまとめや相談の窓口をお願いし、苦情や要望を積極的に掘り起こす努力をしている。出された意見は職員間や運営推進会議で話し合い、運営に反映している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部のブロック統括責任者も交えて、月1回以上ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞いている。重要な案件があった場合などは緊急ミーティングを開催し、職員全員で話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定例の異動は1年に1人程度とし、配属された職員は3年以上異動しないよう法人全体で配慮している。やむを得ず異動する場合は、十分な引き継ぎ期間をとるなど、職員の異動による利用者のダメージ軽減に配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しに適宜行われている	各種マニュアルは整備され、その見直しも随時行われている。職員間で標準的ケア方法の統一が図られ、ケア水準が確保されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として研修を計画的に実施する体制が整っており、新人・中堅・幹部職などの職域・職能別や、法人内事業所間の合同月例ミーティングなど、各種研修が実施されている。外部研修にもできる限り参加できるように配慮し、また、ホーム独自でも訪問看護ステーション看護師による医療面の講習等を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県グループホーム協議会の中心的な事業所として活動している。また、法人内に複数のグループホームがあり、定期的な学習会や交流会を行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は普段から職員とのコミュニケーションを密にとっている。法人としても職員のメンタルケアを行う体制を整備しており、法人本部にカウンセラーを配置するとともに、ブロック統括責任者等にもいつでも相談できるようにしている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人本部に、グループホーム担当の相談員が配置されており、利用希望者のニーズを把握し、事前面接で本人・家族の希望を確認するとともに、説明を行っている。事前面接時にはホーム職員とも会ってもらったり、入居前の見学を受け入れるなどし、馴染みの関係を築けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生花の師匠をしていた利用者と一緒に花を活けたり、書道の得意な利用者には地域の方へお手紙を筆で書いてもらったりと、利用者の生活歴や特技を生活の中で活かし、共に支え合って暮らす関係づくりに取り組んでいる。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会は多く、密に情報交換を行っている。家族には利用者のありのままの状況を伝え、支援方針を共有している。面会時に家族が食事介助をしたり、食事が進まない方には本人の好きなものを作って届けてもらったり、ターミナル期に付き添ってもらうなど、家族の協力を得て本人を支えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントの「24時間生活変化シート」を活用して利用者の様子を記録し、その人の行動にはどのような意味があるのか、どのようなときにこのような行動をするのかを検討して、意向や思いを把握するよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを使い、家族にも記入してもらいながら、本人のこれまでの暮らしを把握している。ゴルフの好きだった方には、ゴルフ練習場への外出支援をするなど、把握した情報をケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアの中での気づきは申し送りノートに記入し、それらを基にカンファレンスを開催して、本人や家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。必要時には、訪問看護師、主治医、ブロック統括責任者等からもアドバイスを得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回モニタリングを実施し、必要な見直しを行っている。状態が変わった場合は随時カンファレンスを開き、家族や職員、計画作成担当者と話し合い、現状に即した介護計画へと変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの希望に応じた外出や、必要時の受診支援等、ニーズに合わせて支援している。また、浴室はデイサービスと共有であるので男性利用者への支援はデイサービスの男性職員が行ったり、デイサービスを利用する知人との交流できるようにするなど、併設事業所との連携により、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、かかりつけ医による住診がある。受診支援は基本的に家族が行っており、家族には利用者の状態を記入した連絡メモを渡し、医師への情報提供を行っている。必要時はホーム職員による受診付添もを行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、住み慣れた場所で生活し続けることを大切にしており、最期までホームでの生活を支援するという方針を職員も理解している。重度化した場合の対応については、入居契約時と、その後必要な都度、本人、家族に説明して同意を得ており、実際にホームで看取ったケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時は必ずロックする、居室には利用者の意思により施錠できるなど、プライバシーに配慮した対応をとっている。利用者の名前の呼び方は、本人・家族と話し合った上で、本人に馴染みのある呼び方になっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課を設けず、利用者の生活リズムに合わせて食事や入浴、買い物への外出などを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の介護度が比較的高いという状況の中でも、味見や下膳等できることを一緒に行っている。近くのスーパーで利用者におやつを選んでもらったり、店屋物を食べたい時には献立を変更して出前を注文するなど、多様な方法で食事を楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行って利用者個々の排泄リズムを把握し、表情や様子を見ながらトイレ誘導している。重度化に伴いオムツを使用する利用者も多くなっているが、バナナや牛乳を多く取ってもらうなどして、なるべく薬剤を使わず自然排便できるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室がデイサービスセンターとの共用のため、以前はホーム利用者の入浴は午後に限られていたが、デイサービスの職員と連携することで午前も入浴できるようにし、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の重度化により役割づくりが難しくなっているが、生け花や書道、たたみものなど、その人のできることで、得意なことを把握して、活躍できる場面づくりをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつや買い物等で週に何度かは外出している。また、家族の見舞いやドライブなど希望に応じて出かけている。重度化により車に乗れない利用者には、玄関先に出て外の空気に触れる機会を作るなどして配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止の方針が確立しており、勉強会も開催して職員の理解を深めている。ベッドから転落の危険性がある方には、家族の了解を得てベッドサイドにマットや布団を敷きケガの軽減を図るなど、拘束をしないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階にある建物全体の玄関は日中は施錠していない。ホームの非常口にも音楽が鳴るセンサーを設置して利用者の安全を確保し、鍵をかけないケアを実践している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等が発生した場合は、事故・ヒヤリハット報告書を作成している。報告書は詳細に記載し、これをもとに対策を検討している。対策が有効に機能しているかも検証し、再発防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	特別養護老人ホームでの勤務を経験している職員は救急法の訓練を経験しており、また、個人的に救急救命の研修に参加した職員もいるが、ホームとして急変時の対応に関する研修を定期的に行ってはいない。		いざという時に確実に対応できるよう、ホームで実際に起こりうる緊急時の場面を想定し、定期的に繰り返し訓練を積み重ねることが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	ホームには火災報知機やスプリンクラーが整備されており、避難訓練は年に2回実施している。また、災害時には同一法人の特別養護老人ホームとの協力体制が確立しており、また、地域の消防署との関係づくりも進めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が作成したメニューに沿って食事を提供している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、おにぎり食、刻みやミキサー、とろみなど、複数の食事形態を用意している。体調が優れない場合などは、その時々に応じて内容や形態の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には随所に手すりが設置され、また、車椅子での移動ができるよう家具の配置を工夫している。食堂には長イスも置き、利用者がくつろげる空間づくりをしている。職員間で話し合ったり管理者のアドバイスを受けるなどして季節感ある飾り付けをしたり、絵や写真、手作り作品等を飾り、親しみやすい雰囲気をつくっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その人らしい居室となるよう、家族の協力を得ながら、タンスや仏壇などの馴染みの物品を持ち込んでもらっている。居室に設置されたほとんどの家具は、利用者の個人の持ち込み品である。</p>		